

台灣日語學習者使用 "youda" 與 "mitaida" 之特徵 — 以提升日語語法教育效能為目標 —

劉怡伶

東吳大學日本語文學系教授

摘要

本研究目的是比較台灣日語學習者與日語母語話者在 "I-JAS" 中 "youda" 及 "mitaida" 的使用情形，並探討如何對台灣日語學習者進行有效的語法說明。具體而言，本研究將指出為區分兩者不同，需說明兩者文體特徵上之差異。此外為提高台灣日語學習者對這兩個詞的理解，本研究還將討論在教授 "youda" 及 "mitaida" 的「推論用法」「委婉用法」「比擬用法」時，應分別使用哪些具體情境說明。當教授日語學習者語法時，面對缺乏母語語感的情況，本研究建議先了解不同母語、不同地域學習者的學習困難點，然後透過具體的情境及實例進行說明，以提升日語語法教學效率。

關鍵詞：學習者語料庫、I-JAS、推論、委婉、比擬

受理日期：2023 年 3 月 10 日

通過日期：2023 年 5 月 26 日

DOI：10.29758/TWRYJYSB.202306_(40).0005

**The Usage of "Youda" and "Mitaida" by Taiwanese
Learners:
For Effective Grammar Education**

Liu, Yi-Ling

Professor, Department of Japanese Language and Culture,
Soochow University

Abstract

The purpose of this paper is to compare the use of "youda" and "mitaida" in "I-JAS" by Taiwanese Japanese learners and native Japanese speakers, and to investigate how to provide effective grammatical explanations to Taiwanese Japanese learners. Specifically, this paper will discuss the necessity of explaining stylistic features in order to enhance understanding of the use of these two words. Additionally, this paper will demonstrate how the inferential usage, euphemistic usage, and metaphoric usage of "youda" and "mitaida" can be explained more easily by providing specific examples for each. This paper will argue that it is more efficient to teach Japanese language learners grammar by understanding their learning difficulties and using specific situations to teach them.

Keywords: learner corpus, I-JAS, inference, euphemism, metaphor

台湾人日本語学習者の「ようだ」「みたいだ」の使用の特徴 —効率的な文法教育を目指して—

劉怡伶

東呉大学日本語文学系教授

要旨

本稿の目的は、『I-JAS』における台湾人学習者と日本語母語話者の「ようだ」「みたいだ」の使用特徴を比較し、有効な指導内容を検討することである。具体的には、両表現の使い分けを理解するために、文体的特徴を説明する必要があることを指摘する。また、「ようだ」「みたいだ」の推量用法、婉曲用法、比況用法の指導の際に、それぞれ使用しやすい場面を用いて説明することで理解を深めることができることを述べる。非母語話者への文法教育を施す場合、母語別、地域別の学習者の困難点を把握した上で、具体的な事例を用いて指導することが効率的であることを論じる。

キーワード：学習者コーパス、I-JAS、推量、婉曲、比況

台湾人日本語学習者の「ようだ」「みたいだ」の使用の特徴 —効率的な文法教育を目指して—

劉怡伶

東呉大学日本語文学系教授

1. はじめに

文法や語彙の指導は外国語教育において重要な課題で、有効な学習指導が求められる。効率的な文法教育は文法知識の伝授だけでなく、運用能力の向上にもつながる。本稿では、台湾人学習者の「ようだ」「みたいだ」¹の使用特徴を考察し、有効な指導内容を検討する。ここで「ようだ」「みたいだ」を対象にするのは、日本語学習者にとって習得が難しいと言われているからである（大島 1993、佐々木・川口 1994 など）。具体的には『I-JAS（多言語母語の日本語学習者横断コーパス）』を利用して「ようだ」「みたいだ」に関する台湾人学習者の困難点を考察する。また日本語母語話者の使用実態との比較を通して、使用問題の改善に役立つ助言を行う。

本稿の以下の構成は次の通りである。まず2節では、「ようだ」「みたいだ」に関する記述をまとめる。3節ではデータの抽出方法と分析手順を述べる。4節と5節では、両表現の使用実態について量的・質的分析を行う。6節ではまとめと今後の課題を述べる。

2. 従来の記述

先行研究や学習指導書に「ようだ」「みたいだ」に関する記述が多

¹ 本稿では文（または節）の述語に用いられる「ようだ／ようです」「みたいだ／みたい／みたいです」を考察対象とする。説明の便宜上、これらの形式を「ようだ」「みたいだ」で示す。

なお、文末に用いられる「みたいな」は「ぼかし言葉」、即ち「不確かさ、可能性、暫定的なこと、概略を語彙的に表す曖昧な表現」としての機能を持つものである（メイナート 2009、鈴木ほか 2021 など）。

(i) でもう面倒くさいからこれでいいやみたいな（鈴木ほか 2021 の例 5）
本稿では、日本語教育で注目されている「ようだ」「みたいだ」の用法を分析することを目的とするため、(i)のような用法は考察対象外とする。

い(寺村 1984、森田 1989、田野村 1991、益岡 1991、益岡・田窪 1992、三宅 1995、グループ・ジャマシイ 1998、丹保 1999、庵ほか 2000、菊池 2000、宮崎 2002、黄 2003、三宅 2006、國澤 2008、中俣 2014、蓮沼 2017 など)。従来の記述を見ると、両表現は、文体的な特徴が異なるものの、その用法は基本的に同じく「推量」「婉曲」「比況」の三つがある²。

2.1 推量用法

まず、「ようだ」「みたいだ」の推量用法は主に 2 つの特徴がある。

(1) 「ようだ」「みたいだ」の推量用法の特徴

- a. 自分が直接体験したこと（視覚、聴覚、あるいは周囲の状況など）に基づく推定を述べる形式である(寺村 1984、益岡 1991、益岡・田窪 1992、グループ・ジャマシイ 1998、庵ほか 2000、中俣 2014 など)。
- b. 自分の責任で判断を下したという意味合いが強い（益岡・田窪 1992、庵ほか 2000、黄 2003 など）。

(1a)の特徴は次の例から窺える。(2)(3)では話し手は「ようだ」「みたいだ」を用いて自分が観察したことに基づく推定を述べている。

(2) あの人はどうやら結婚しているようだ。結婚指輪をしていた

² 「ようだ」「みたいだ」は「推量」「婉曲」「比況」以外に、「例示」を表す用法もある。しかし、内田(1977)の指摘のように、例示用法の「ようだ」「みたいだ」は述語とはなれない。本稿では文（または節）の述語に用いられる用法に焦点を当てているため、例示用法を考察しない。

また「ようだ」「みたいだ」は文体的特徴のほか、接続の仕方にも相違が見られる（日本語記述文法研究会 2003 など）。例えば、次のように名詞、ナ形容詞との接続が異なる（下例は筆者による）。

(i) 田中さんは { 高校生のようです / 高校生みたいです }。

(ii) 教え方は { 上手なようです / 上手みたいです }。

筆者の経験では、学習者を悩ませているのは、外見で識別できる接続の仕方より、両表現の使い分けや、他の類義表現との使い分けの問題である。そこで、本稿では用法の特徴を中心に考察を行う。

もの。(益岡・田窪 1992 : 128)

(3) どうやら来週テストがあるみたいだ。(中俣 2014 : 220)

また(1b)の特徴は「らしい」との比較からわかる。「らしい」は、間接的な経験(伝聞、他人の調査結果など)による推定を述べる形式で、責任を避けた判断になる傾向が強い(森田 1989、益岡・田窪 1992、庵ほか 2000 など)。益岡・田窪(1992)の指摘のように自分の判断を示す必要がある(4)のような場合には、「ようだ」「みたいだ」がふさわしく、「らしい」は不適切である。

(4) 反対の方いらっしゃいますか。どうやら全員ご賛成のようですので、そのように決めさせていただきます。(益岡・田窪 1992 : 128)

以上のように、「ようだ」「みたいだ」の推量用法を理解するために、「らしい」との違いを知る必要がある。

2.2 婉曲用法

「ようだ」「みたいだ」は婉曲用法もある(森田 1989、中畠 1990、田野村 1991、菊池 2000、黄 2003、2004、國澤 2008、蓮沼 2017 など)。ここでいう婉曲用法は、蓮沼(2017)に従い、次のように定義する。

(5) 「ようだ」「みたいだ」の婉曲用法

話し手が事態を確実に把握しているにも関わらず、対人的配慮に基づき、主張の抑制・断定回避や、品位ある人物としての自己イメージの保全などを意図して「ようだ」「みたいだ」を使用するような場合の用法である。

例えば、(6)は「ようだ」の婉曲用法の例であるが、この例では、発言内容が聞き手の内面を脅かす要素を持っているので、話し手は、

自分の発言内容が不適切な性質を持つことを前置きの述べることで、対人的配慮を示している（蓮沼 2017）。

(6) [すごく好きな人とつきあっても、とたんに冷めてしまう。長く続けるコツを教えてほしい]

それは恋愛ではなく、単なる物欲でしょう。ゲームを楽しんでいるとしか言えないですね。何か幼少期にあなたの気付かないトラウマがあるのかもしれないですね。きついですが、これは自分で治そうと思っても治る物ではないと思います。（蓮沼 2017 の例 26）³

また、(7)は「みたいだ」の婉曲用法の例である。「好き」「嫌」のような、話し手が直接的に経験している感覚・感情は本人にとって確実なものなので、通常は観察対象になりにくいのが、(7)のように、断定を回避することで、婉曲的に表現する場合もある（蓮沼 2017）。

(7) 最終的に彼のほうからさようならを告げられました。私はそのことに返事をしないで来ました。やっぱりまだ好きみたいです。でももう遅いですよね。（蓮沼 2017 の例 8）

注意すべきは、(6)(7)は「Yahoo! 知恵袋」から採集された例で、書き言葉ではあるが、対話の要素を持っている（蓮沼 2017）。ここからも仁田（1992）の指摘のように、婉曲表現の特性は「対話状況」でしか用いられないことがわかる。

2.3 比況用法

「ようだ」「みたいだ」は比況用法もある（森田 1989、益岡・田窪 1992、グループ・ジャマシイ 1998、杉浦 2012、中俣 2014）。

³ (6)(7)の下線は蓮沼によるもの。

例えば、(8)(9)では、話し手は「ようだ」「みたいだ」を用いて、問題の事態を性質の類似した別の事態（「盆と正月」「台風」）で特徴づけている（益岡・田窪 1992、グループ・ジャマシイ 1998）。

(8) まるで盆と正月が一度に来たようだ。(益岡・田窪 1992: 134)

(9) すごい風だ。まるで台風みたいだ。(グループ・ジャマシイ 1998: 561)

台湾人学習者が(8)(9)のような比況の「ようだ」「みたいだ」を適切に使用しているかどうかも本稿の注目する課題の一つである。

2.4 文体的特徴

「ようだ」「みたいだ」は前述のように、用法は基本的に同じであるが、文体的特徴に両表現の違いが見られる。「ようだ」は書き言葉や改まった話し言葉で使われるのに対し、「みたいだ」はくだけた話し言葉で使われる（グループ・ジャマシイ 1998、庵ほか 2000 など）。

黄（2003）では、日本語母語話者を対象に意識調査を行った結果、「ようだ」は「丁寧、フォーマル、かたい言い方で、目上の人、店員が客に対してよく使われる」こと、「みたいだ」は「カジュアル、くだけた言い方で、親しい人、友達、気を使わない人に対してよく使われる」ことを明らかにしている。一方、台湾人学習者にアンケートをした結果、「ようだ」と「みたいだ」の「待遇レベル」の違いを区別できないことを指摘している。

以上、「ようだ」「みたいだ」についての記述をまとめた。前述のように、先行研究や学習指導書では、両表現の各用法の特徴や文体的特徴を詳しく説明している。しかし、学習者の使用実態を調査したものがいないため、実際に使用できるかどうか、またはどのような場合に使用できないのかは不明である。以下、台湾人学習者の使用実態を考察し、「ようだ」「みたいだ」の学習困難点を解明する。

3. 調査方法

3.1 データの抽出方法

本稿では『I-JAS』を利用して台湾人学習者の「ようだ」「みたいだ」の使用実態を考察する。『I-JAS』を利用した理由は、日本語母語話者のデータもあるので、台湾人学習者と日本語母語話者の使用実態を比較できるからである。また、『I-JAS』に収録されている多様なタスクのデータを分析することで、異なるタスクにおける「ようだ」「みたいだ」の使用状況を確認できるからである。

データ抽出の際にコーパス検索アプリケーション「中納言」(短単位検索)を利用した。検索条件は下記の通りである。

(10) 「ようだ」の検索条件

キー: 語彙素⁴="様" AND 品詞="形状詞-助動詞語幹"

(11) 「みたいだ」の検索条件

キー: 語彙素="みたい" AND 品詞="形状詞-助動詞語幹"

上記の条件で抽出したデータの中に誤解析、または対象外の例(「ようになる」「ようにする」「{ような/みたいな} + 名詞」、「{ように/みたいに} + 用言」、文頭に来る「みたいです」、文末の「みたいな」など)が含まれているが、手作業で除外した。本稿では前述のように採取したデータを用いて考察を行う。

3.2 分析手順

本稿では、台湾人学習者(以下 TW)と日本語母語話者(以下 JJ)の使用実態を把握するために、量的調査と質的調査を行う。

まず、量的調査では、TW と JJ の使用実態を調査する。調査の際に、両表現の全体的な使用傾向及び前述の三つの用法(即ち「推量」

⁴ 「中納言」の検索条件で検索項目を「語彙素」と指定した場合、当該の語彙素見出しを持つすべての語形、及びその語形見出しを持つ全ての書字形を網羅的に検索することができる。詳しくは、「中納言オンラインマニュアル」(<https://clrd.ninjal.ac.jp/chu-00.html>)をご参照のこと。

「婉曲」「比況」)の使用実態を分析する。次に質的調査では、量的調査の結果を踏まえながら、TW にとって使用が難しい場面や文脈を分析する。最後にこれまでの考察で明らかになった学習困難点に基づき、TW に必要な指導内容、指導方法を考える。

4. 「ようだ」「みたいだ」の使用実態

4.1 全体的な使用傾向

本節では、TW と JJ の「ようだ」「みたいだ」の全体的な使用傾向を見る。表 1 は、『I-JAS』における TW と JJ の「ようだ」の使用数及び 100 万語あたりの使用頻度を示したものである⁵。

表 1 『I-JAS』における TW と JJ の「ようだ」の使用実態

タスク ⁶	TW			JJ		
	各タスクの語数 ⁷	使用数	100 万語あたりの使用頻度	各タスクの語数	使用数	100 万語あたりの使用頻度
D	35259	16	453.78	18464	30	1624.78
I	225464	8	35.48	202034	12	59.40
RP1	18065	1	55.36	10818	0	0.00
RP2	17662	0	0.00	10943	2	182.77
ST1	12704	3	236.15	5838	0	0.00
ST2	13719	1	72.89	6266	7	1117.14
SW1	10936	2	182.88	4943	2	404.61

⁵ 『I-JAS』における TW と JJ のデータの総語数が異なるので、その使用傾向を比較するために 100 万語あたりの使用頻度を考慮する必要がある。

⁶ 本稿で利用した『I-JAS』のタスクは下記の通りである。

(i) 発話データ

絵描写 (D)、ストーリーテリング (ST1、ST2)、対話 (I)、ロールプレイ (RP1、RP2)。

(ii) 作文データ

ストーリーライティング (SW1、SW2)。

⁷ 『I-JAS』の各タスクの語数は記号などを除外して計算したものである。詳しくは、「I-JAS 語数表 (version.2022.05)」を参照のこと。

SW2	10961	1	91.23	5603	8	1427.81
合計	344770	32	92.82	264909	61	230.27

表 1 の 100 万語あたりの使用頻度を比較すると、JJ では「ようだ」の全体的な使用頻度が TW の 2 倍以上と高い。特に使用頻度が高いタスクは、順に D タスク、SW2 タスク、ST2 タスクである。

一方、TW では「ようだ」の使用頻度が高いタスクは、順に D タスク、ST1 タスク、SW1 タスクである。しかし、使用頻度が最も高い D タスクでも「ようだ」の使用頻度は JJ の 3 分の 1 以下である。TW は、「ようだ」の使用が必要な場合（文脈）に、「ようだ」が使えていないと言える。TW に対して効率的な指導ができるように、JJ が D タスク、SW2 タスク、ST2 タスクでどのように「ようだ」を使用しているかを考察する必要があると思われる。

次に、表 2 は、『I-JAS』における TW と JJ の「みたいだ」の使用数及び 100 万語あたりの使用頻度を示している。

表 2 『I-JAS』における TW と JJ の「みたいだ」の使用実態

タスク	TW			JJ		
	各タスクの語数	使用数	100 万語あたりの使用頻度	各タスクの語数	使用数	100 万語あたりの使用頻度
D	35259	28	794.12	18464	4	216.64
I	225464	52	230.64	202034	84	415.77
RP1	18065	0	0.00	10818	0	0.00
RP2	17662	1	56.62	10943	0	0.00
ST1	12704	0	0.00	5838	0	0.00
ST2	13719	1	72.89	6266	0	0.00
SW1	10936	0	0.00	4943	0	0.00
SW2	10961	0	0.00	5603	1	178.48

合計	344770	82	237.84	264909	89	335.96
----	--------	----	--------	--------	----	--------

表 2 の 100 万語あたりの使用頻度を見ると、JJ では、I タスクにおける「みたいだ」の使用頻度が最も高く、TW の約 1.8 倍である。一方、TW では JJ に比べて、「みたいだ」の全体的な使用頻度が低い、D タスクにおける使用頻度が JJ の 3 倍以上と高い。ここから、TW はどのような場合に「みたいだ」が使用しやすいかを理解していないと言える。TW の問題を解決するために、JJ が I タスクで「みたいだ」をどのように使用しているか、また D タスクで TW がなぜ「みたいだ」をよく使用しているのかを分析する必要があると思われる。

4.2 「ようだ」「みたいだ」の使い分け

次に「ようだ」「みたいだ」の使い分けを見る。表 3 は『I-JAS』における JJ の「ようだ」「みたいだ」の使用数と 100 万語あたりの使用頻度を示している。

表 3 『I-JAS』における JJ の「ようだ」「みたいだ」の使用数

タスク	「ようだ」		「みたいだ」	
	使用数	100 万語あたりの 使用頻度	使用数	100 万語あたりの 使用頻度
D	30	1624.78	4	216.64
I	12	59.4	84	415.77
RP1	0	0	0	0
RP2	2	182.77	0	0
ST1	0	0	0	0
ST2	7	1117.14	0	0
SW1	2	404.61	0	0
SW2	8	1427.81	1	178.48

合計	61	230.27	89	335.96
----	----	--------	----	--------

表 3 の 100 万語あたりの使用頻度を見ると、「ようだ」は D タスク、RP2 タスク、ST2 タスク、SW1 タスク、SW2 タスクでは使用頻度が高いが、「みたいだ」は I タスクでは使用頻度が高い。各タスクの文体的特徴を考えると、SW1 タスク、SW2 タスクは丁寧体基調の書き言葉で、D タスク、ST2 タスクは丁寧体基調の独話で、RP2 タスクは丁寧体を基調とする、上司との会話である。一方、I タスクは丁寧体を基調とする、軽い話題の対話である。従って、「ようだ」は丁寧体基調の書き言葉、丁寧体基調の独話、丁寧体を基調とする、上司との対話で使用しやすいが、「みたいだ」は丁寧体を基調とする、軽い話題の対話で使用しやすいと言える。

次に、表 4 は『I-JAS』における TW の「ようだ」「みたいだ」の使用数と 100 万語あたりの使用頻度を示している。

表 4 『I-JAS』における TW の「ようだ」「みたいだ」の使用実態

タスク	ようだ		みたいだ	
	使用数	100 万語あたりの使用頻度	使用数	100 万語あたりの使用頻度
D	16	453.78	28	794.12
I	8	35.48	52	230.64
RP1	1	55.36	0	0
RP2	0	0	1	56.62
ST1	3	236.15	0	0
ST2	1	72.89	1	72.89
SW1	2	182.88	0	0
SW2	1	91.23	0	0
合計	32	92.82	82	237.84

表 3 と表 4 の 100 万語あたりの使用頻度を比較すると、「ようだ」「みたいだ」の全体的な使用頻度はともに TW のほうが低いが、D タスク以外では類似した使用傾向が見られる。つまり、TW は JJ と同様に、丁寧体基調の書き言葉（SW1、SW2）や、丁寧体基調の独話（ST2）では「ようだ」をよく使用しているが、丁寧体を基調とする、軽い話題の対話（I）では「みたいだ」をよく使用している。問題は、なぜ丁寧体基調の D タスクで JJ が「ようだ」を多く使用しているのに対して、TW が「みたいだ」を多く使用しているのかということである。D タスクに見られる TW と JJ の使用傾向の違いを考察する必要があると思われる。

4.3 用法別の使用実態

4.3.1 「ようだ」

本節では、「ようだ」の用法別の使用実態を見る。まず、『I-JAS』における TW と JJ の「ようだ」の 100 万語あたりの使用頻度を用法別に示すと、表 5 になる（括弧内は実際の使用数を示す）。

表 5 『I-JAS』における「ようだ」の用法別の使用実態

タスク	TW			JJ		
	推量	婉曲	比況	推量	婉曲	比況
D	453.78 (16)	0 (0)	0 (0)	1624.78 (30)	0 (0)	0 (0)
I	13.31 (3)	4.44 (1)	17.74 (4)	54.45 (11)	4.95 (1)	0 (0)
RP1	55.36 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
RP2	0 (0)	0 (0)	0 (0)	91.38 (1)	91.38 (1)	0 (0)
ST1	236.15	0	0	0	0	0

	(3)	(0)	(0)	(0)	(0)	(0)
ST2	72.89 (1)	0 (0)	0 (0)	1117.14 (7)	0 (0)	0 (0)
SW1	182.88 (2)	0 (0)	0 (0)	404.61 (2)	0 (0)	0 (0)
SW2	91.23 (1)	0 (0)	0 (0)	1427.81 (8)	0 (0)	0 (0)
合計	78.31 (27)	2.9 (1)	11.6 (0)	222.72 (59)	7.55 (2)	0 (0)

表 5 を見ると、まず、JJ では、三つの用法のうち、推量の「ようだ」の使用頻度が最も高い。また、JJ の「ようだ」の使用頻度が特に高い D タスク、SW2 タスク、ST2 タスクでは、基本的に推量用法が使用されていることがわかる。一方、TW では、推量の「ようだ」は D タスクにおける使用頻度が最も高いが、JJ の 3 分の 1 のみで、過少使用が見られる。「ようだ」の理解を促進させるために、JJ が D タスク、SW2 タスク、ST2 タスクでどのように推量の「ようだ」を使用しているかを分析する必要があると言える（【課題 1】）。

次に、「ようだ」の婉曲用法と比況用法については、JJ では TW と異なり、PR2 タスクと I タスクで婉曲の「ようだ」の使用が確認できる。一方、TW では JJ と異なり、I タスクで比況の「ようだ」の使用が確認できる。

ただ詳しくは次節で述べるが、JJ は、I タスクで婉曲の「ようだ」より婉曲の「みたいだ」を多く使用している。また、TW は、I タスクで比況の「ようだ」より比況の「みたいだ」を多く使用している。I タスクでは JJ の婉曲の「みたいだ」、及び TW の比況の「みたいだ」に注目する必要があると言える。

4.3.2 「みたいだ」

本節では、「みたいだ」の用法別の使用実態を見る。『I-JAS』にお

ける TW と JJ の「みたいだ」の 100 万語あたりの使用頻度を用法別に示すと表 6 のようになる（括弧内は実際の使用数を示す）。

表 6 『I-JAS』における「みたいだ」の用法別の使用実態

タスク	TW			JJ		
	推量	婉曲	比況	推量	婉曲	比況
D	794.12 (28)	0 (0)	0 (0)	216.64 (4)	0 (0)	0 (0)
I	97.58 (22)	0 (0)	133.06 (30)	356.38 (72)	34.65 (7)	24.75 (5)
RP1	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
RP2	56.62 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
ST1	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
ST2	72.89 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
SW1	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
SW2	0 (0)	0 (0)	0 (0)	178.48 (1)	0 (0)	0 (0)
合計	150.83 (52)	0 (0)	87.01 (30)	290.67 (77)	26.42 (7)	18.87 (5)

表 6 から次のことが言える。まず、「みたいだ」の推量用法については、4.1 で明らかになったように、JJ では、I タスクにおける「みたいだ」の使用頻度が最も高く、TW の約 1.8 倍であるが、用法別に見ると、I タスクでは、JJ の「みたいだ」の推量用法が最も使用

頻度が高い。JJ が I タスクでどのように推量の「みたいだ」を使用しているかを記述することは重要な課題と言える（【課題 2】）

次に 4.1 節で述べたように、TW では「みたいだ」の全体的な使用頻度が JJ より低い、D タスクにおける使用頻度が JJ の 3 倍以上と高い。表 6 からわかるように、D タスクでは TW は JJ より推量の「みたいだ」を多く使用している。D タスクで TW が推量の「みたいだ」を多用している原因を分析する必要があると思われる（【課題 3】）。

また、「みたいだ」の婉曲用法と比況用法については、表 6 のように、JJ では I タスクにおける「みたいだ」の婉曲用法が TW より使用頻度が高い。一方、TW では I タスクにおける「みたいだ」の比況用法が JJ より使用頻度が高い。I タスクで JJ がどのように「みたいだ」の婉曲用法を使用しているか（【課題 4】）、また I タスクでなぜ TW が「みたいだ」の比況用法を多く使用しているのかを考察する必要があると言える（【課題 5】）。

5. 分析

4 節では TW と JJ の使用傾向の相違を分析した。分析の結果、次の 5 つの課題を考察する必要があることが判明した。

【課題 1】：JJ が D タスク、SW2 タスク、ST2 タスクでどのように推量の「ようだ」を使用しているか。

【課題 2】：JJ が I タスクでどのように推量の「みたいだ」を使用しているか。

【課題 3】：TW がなぜ D タスクで推量の「みたいだ」を多用しているのか。

【課題 4】：JJ が I タスクでどのように「みたいだ」の婉曲用法を使用しているか。

【課題 5】：TW がなぜ I タスクで TW が「みたいだ」の比況用法を多く使用しているのか。

以下、各タスクで使用されている例を踏まえて考察する。

5.1 【課題 1】

前述のように、JJ は TW と異なり、D タスク、SW2 タスク、ST2 タスクで推量の「ようだ」を多く使用している。本節ではこの 3 タスクにおける JJ の推量の「ようだ」の特徴を考察する。

まず、D タスク、SW2 タスク、ST2 タスクでは JJ は「ようだ」を用いてイラストに基づき推測した人物の行動を述べている。例えば、(12)(13)は D タスクにおける JJ の例で、(14)～(16)は SW2 タスクと ST2 タスクにおける JJ の例である⁸。

(12) 外では、えー、子供がおやつを食べているようです

(JJJ44-D)

(13) (略) あ、あの、何(なに)か問題があったようで、女性は泣いているようです (JJJ57-D)

(14) しかし、マリはぐっすり眠っているようです。(JJJ57-SW2)

(15) 警官に事情を話すと、どうやら納得してくれたようです。

(JJJ11-SW2)

(16) 「マリ起きてくれよ」、ケンはマリに話しかけましたが、マリはぐっすり眠っているようです (JJJ57-ST2)

一方、前述のように、TW では、上記のタスクで推量の「ようだ」の過少使用が見られる。例えば、次の例では、(12)(14)(16)と同じ場面における人物の行動を説明しているが、TW は言い切りの形を使っている。

(17) ある一子供はアイスクリームを、{笑} 食べています

⁸ 下線は筆者による。以下同様。

(CCT33-D)

(18) それに、深夜なので、マリはグーッと寝ています。

(CCS26-SW2)

(19) うーん、どん、うんどんなに呼ん、でも、マリはずっと寝
ています (CCS31-ST2)

注意すべきは下記の点である。表 7 は D タスク、SW2 タスク、ST2 タスクにおける TW と JJ の推量の「ようだ」の直前の述語動詞を示している（出現数が 2 回以上のみ）が、表 7 からわかるように、JJ では TW と異なり、生理・心理を表す述語動詞が来ることが多い。

表 7 TW と JJ の推量の「ようだ」の直前の述語動詞

	TW	JJ
述語動詞	ある (2)、 いる (2)	寝る (4)、気がつく (3)、食べる (3)、眠る (2)、 割る (2)、納得する (2)、なる (2)、 疑う (2)、出る (2)、ある (2)

表 7 から、JJ は人の生理・心理に関わる行動を描写する際に推量の「ようだ」をよく使用していると言える。推量の「ようだ」が生理・心理を表す述語動詞と共起しやすい理由は次のように考えられる。即ち、人の生理・心理を外見から読み取ることが難しい（例えば「眠っているかどうか」「納得しているかどうか」「何を食べているか」など）ので、推量の「ようだ」を用いて推定を述べる必要があるということである。

4.2 節で明らかになったように、軽い話題の対話では「ようだ」より「みたいだ」が使用しやすいが、両表現の文体的特徴を考えると、軽い対話の中で人の生理・心理を推定する場合に推量の「みたいだ」が用いられると推測できる。4.1 節で述べたように、TW が「ようだ」「みたいだ」が使用しやすい場面を理解しておらず、指導が必要である。従って、人の生理・心理を描写する場面を通して指導す

ることで、推量の「ようだ」「みたいだ」の使い方がより理解できると思われる。

5.2 【課題 2】

前述のように、JJはTWと異なり、Iタスクで推量の「みたいだ」を多く使用している。本節ではIタスクにおけるJJの推量の「みたいだ」の特徴を考察する。

まず、次のように、JJは他者のことを述べるときに推量の「みたいだ」を用いることがある⁹。

- (20) K: そうですね、〈へー〉はい、あの一今ね、野球よりもまあサッカーのほうが人気があるような感じではありますけど〈うんうん〉、その、頃は、サッカーはあまりまだメジャーじゃなかった〈あー〉時なんですけども一〈はい〉、まあ今じゃ、あの一その『キャプテン翼』という漫画もサッカーをやる子たちはけっこう
- C: みんな読んでるんですかね
- K: 読んでる、子が多いみたいですね (JJJ48-I)

(20)では漫画を読む子供のことを話しているが、このような他者のことを述べている場合は断定が難しいので、自分の経験による推定を行っていると考えられる。また次のように、JJは子供の頃の話をするときにも推量の「みたいだ」を用いることがある。

- (21) C: ちょっと今小さい頃の話が〈はい〉出たんですけど、〈ええ〉JJさんは小さい頃はどんなお子さんだったんですか
- K: 私はですね、もうとにかく、えーと、何か(なんか)

⁹ 『I-JAS』では調査者はC、調査協力者はKと記されている。

あるとすぐ腹立てる、子みたいで

C: へー、そうですか

K: ふく、昔でゆう膨れるってゆうんですか

C: あーはいはいはい

K: ほっぺたを膨らまして、〈はいはい〉もう気に入らないことがあるとぷんぷんぷんぷんしてたらしく¹⁰って、〈んー〉もう親が、ほんとに手を焼いてたみたいです、〈んー〉で、あの、この（連体詞）性格は今も変わらないんですけど、〈んー〉けっこう好奇心旺盛で、〈んー〉どこでもこう行きたがっちゃう、〈んー〉目を離すとー、んーもう興味のあるほうに行っちゃう、子だったので、〈んー〉もうとにかく大変だったみたいで{笑}
(JJJ33-I)

(21)のような、小さい頃の話をするとき、記憶が曖昧になっている部分があるので、人から聞いた話、または何らかの状況による推定を行う必要があると考えられる。

一方、次の例では、TW は他者のこと、子供の頃のことを話しているが、言い切りの形で述べている。

(22) K: 台北、うーん、ジョーファー、あの一、わかりますか？
あの一、神隠しの、あの一、くー、あの一、あるところは一、日本人の一、みんなも、行きたい、〈うん〉所があります (CCT02-I)

¹⁰ IタスクではJJは他者の話や子供の頃の話をするときに伝聞の「らしい」を使用することもある。Iタスクにおける伝聞の「らしい」と推量の「ようだ」「みたいだ」の使用数を多い順に並べると次のようになる（括弧内は使用数）。

i)推量の「みたいだ」(72) > 伝聞の「らしい」(56) > 推量の「ようだ」(11)

一方、前述のように、TW は前述のように場合に言い切りの形で述べることが多い。ここから、TW と JJ では「みたいだ」だけでなく、「らしい」の使用傾向も異なることがわかる。

(23) K：私がどんな子供？

C：うん、うん

K：おー、運動が一好きではあり、好きではない子供でした、あーです (CCS07-I)

上の考察から、他者の話や、小さい頃の話をするときに推量の「みたいだ」がよく使用されていることがわかる。推量の「みたいだ」を説明する際に、上述のような TW と JJ の使用に違いが見られる場面を用いて説明することで理解を深めることができると考えられる。

5.3 【課題 3】

本節ではなぜ TW が D タスクで推量の「みたいだ」を多用しているのかを分析する。次のように、TW は人（動物）の生理・心理を述べるときに推量の「みたいだ」を用いることがある。

(24) K：屋根の上ではあの一猫がにびに二匹がいます

C：うんうんうんうん

K：うんたぶん寝ているみたいです (CCS09-D)

(25) K：えー川の近くーでは、えーっと川の近くではあの一子供子供は何人（なんにん）かあそ遊んでいるみたいでー〈んー〉そしてーえーそしてもうー二人そしてそばそれで隣にはたぶん、も、えー二人のあの一女の子とおととこ男の子がいて男、男の子はあの一なんかえーたべえー物を食べているみたい (CCS09-D)

(26) K：そそのアイスクリームを食べる子供は子供の、ねお姉さんは、気持ちが悪いみたい、です (CCT08-D)

5.1 節で述べたように、D タスクでは JJ は人の生理・心理を描写する場合に推量の「ようだ」を使用することが多い。こうした JJ の特徴と上述の TW の推量の「みたいだ」の特徴を併せて考えると、

D タスクでは JJ が推量の「ようだ」を用いているところを TW は推量の「みたいだ」を使っていることがわかる。従って、TW が D タスクで推量の「みたいだ」を多用している理由は「ようだ」「みたいだ」の使い分けを理解していない可能性があると考えられる。ここから両表現の文体的特徴を指導する重要性が推察される¹¹。

表 8 D と I タスクにおける「ようだ」「みたいだ」の使用頻度

		D	I
TW	推量の「ようだ」	453.78	13.31
	推量の「みたいだ」	794.12	97.58
	合計	1247.90	110.89
JJ	推量の「ようだ」	1624.78	54.45
	推量の「みたいだ」	216.64	356.38
	合計	1841.42	410.83

注意すべきは次の点である。表 8 のように、D タスクにおける TW の推量の「みたいだ」「ようだ」の総使用頻度¹²は JJ の推量の「みたいだ」「ようだ」の総使用頻度より少ないが、I タスクにおける TW の「みたいだ」「ようだ」の総使用頻度は JJ の推量の「みたいだ」「ようだ」の総使用頻度の 4 分の 1 程度とさらに少ない。TW にと

¹¹ 留意したいのは、下表のように、D タスクにおいて TW の調査者 (C) の発話総語数が JJ の調査者 (C) の発話総語数より 7 倍多いことである。

表 D タスクにおける調査者 (C) と調査協力者 (K) 発話総語数

	TW			JJ		
	C	K	合計	C	K	合計
発話総語数	12401	35259	47660	1699	18464	20163
割合	26.02	73.98	100.00	8.426	91.574	100.000

上の表から、D タスクにおける TW の調査協力者 (K) の発話は JJ と比べて、対話の要素がより多く含まれていると言える。TW が D タスクで推量の「みたいだ」を多く使用していることは上述の違いによるものかどうかは不明であるが、今後の課題としたい。なお、TW で D タスクにおける調査者 (C) の発話総語数が多いのは、調査協力者 (K) の発話を促す場面が多いからである。

¹² TW と JJ の使用数を比較するために、表 8 では直接百万語あたりの使用頻度を示している。

って I タスクにおける推量表現（「ようだ」「みたいだ」）の使用は D タスクより難しいと言える。

D タスクに比べて I タスクにおける推量表現（「ようだ」「みたいだ」）の使用が難しい理由は次のように考えられる。D タスク（絵描写）は基本的に同じ情報源の情報（絵に描いている人の表情、動作）を伝達する課題であるが、I タスク（対話）は、異なる性質の情報（情報源が異なる情報、記憶が曖昧になっている情報など）を伝達する状況が多いのである。そのために、I タスクでは、情報の性質によって、言い切りの形を使用すべきか、推量表現または伝聞表現を使用すべきかを判断する力が求められる。推量の「ようだ」「みたいだ」の指導の際に、小さい頃の話や家族の話をする練習をすることで、推量の「ようだ」「みたいだ」が使用しやすい場面をより理解できると思われる。

5.4 【課題 4】

前述のように、JJ は TW と異なり、I タスクで婉曲の「みたいだ」を使用している。本節では、I タスクにおける「みたいだ」の婉曲用法の特徴を分析する。

まず、JJ が I タスクで最も多く使用している「みたいだ」の婉曲用法は同意を示すものである（7 例のうち 4 例）。例えば、(27)(28)では、同意を求めている相手に対して、「そうみたいです」と述べて同意している。

(27) C: はーはーはーはーはー、ほんとにじゃあ、根なし草と
いうかこうふらふらふらふら、海で漂ってる感じなん
ですね

K: そうみたいですねやっぱそういう感じ見てるとしない
んですけど (JJJ01-I)

(28) C: あーなるほどね 〈はいはいはいはい〉、鵜がこう飲み込
んでしまわないように、〈あーはいはいはい〉何 (なに)

かこうストッパーみたいなのを付けるんでしょうか

K: あーそうみたいですねはい (JJJ49-I)

(27)(28)では、「そうです」と同意することも可能であるが、断言を避けることで、話し手は情報を確認できる立場から一步引いた姿勢をとっていると言える¹³。また(29)では、話し手は「みたいだ」を使って自分の感覚を表現している。

(29) K: 階段が上れなくて

C: しんどくてですか

K: すそうですね、苦しくて上れないんですね

C: あーはいはい

K: 力入れるのが苦しいみたい

C: うん (JJJ28-I-)

自分の感情・感覚は直接感知できるものなので言い切りの形で表現できるが、(29)のように断言を避けている場合は話し手は控え目な態度を示していると言える¹⁴。

以上のように I タスクでは、JJ は婉曲的に同意したり、自分の感情を控えめに表現したりする時に「みたいだ」を使用している。婉曲の「ようだ」を含めてこのような用例が TW に 1 件のみなので、TW にとって婉曲用法が難しいと言える。無論、JJ の用法を見ると、婉曲用法より推量用法の使用数が多いので、推量用法の指導を優先すべきであるが、「そうみたいです」のような言い回しを指導するこ

¹³ 黄 (2004) では、婉曲用法の「そのようです」について「述べられる事態が両者の共有する情報であるため、相手への配慮で、自分だけの領域に持っているかのように表現するのではなく、「ようだ」を用いることによって、言い切るのを避け、文話を丁寧にする表現になる」と説明している。本稿で見たように婉曲用法の「そうみたいです」も同じ機能を持っていることがわかる。

¹⁴ 蓮沼 (2017) では婉曲の「みたい」は「自己の心理状態、生理的感覚を観察対象にし、そこで観察された兆候や様態を客観的な観点から叙述している表現と捉えることが可能」であると説明している。

とで、断言表現を使用せず、推量表現、婉曲表現を使用する JJ の心理がより理解できると考えられる。

5.5 【課題 5】

本節では、TW が I タスクで次のような比況の「みたいだ」を多く使用している理由を分析する。

(30) C : へーどんな先生？

K : 友達ーみたいー、です (CCT33-I)

(31) K : ソースを付け、て

C : ソース？

K : はい

C : へー、ソースは

K : ソースは、ぶれ、醤油ー、みたいですでもちょっと甘い
です (CCT29-I)

(30)(31)のように、I タスクでは、TW は物事の説明の際に比況の「みたいだ」を使用している。例えば、上記の例では「先生」「ソース」の説明を行うため、類似した性質・特徴を持つ「友達」「醤油」を説明の道具として利用している。I タスクで TW が JJ より比況の「みたいだ」を多く使用しているのは、言葉を並べて説明するより、類似したものにたとえて表現するほうが TW にとって負担が少ないためであると考えられる。

注意すべきは次のことである。本稿の考察対象ではないが、JJ の I タスクでは、TW と異なり、比況の「みたいだ」の名詞修飾用法は述語用法より多く、かつ名詞以外の品詞に後接する用例が多い。

(32) K : はい、毎日登山してるみたいな感じでした {笑} (JJJ06-I)

(33) K : えー何 (なん) でしょう人が食べてる〈うんうん〉ソフトクリームとか勝手に取って〈{笑}〉ちょっと食べてい

いですかみたいな感じで、一応言う（いう）んですけど
ばくって食べちゃう {笑} (JJJ09-I)

上の考察から、TW にとって比況の「みたいだ」の述語用法より名詞修飾用法や名詞以外の品詞に後接する使い方が難しいと言える。

以上、TW と JJ の比況の「みたいだ」の特徴を考察した。これまでの考察を併せて考えると、文体的特徴のみ異なる比況の「ようだ」も「みたいだ」と同様に、コミュニケーション・ストラテジーとして使用可能であると考えられる。指導の際に、述語用法のほか、名詞修飾用法を練習することで、TW のコミュニケーション能力を伸ばすことができると考えられる。

6. まとめ

以上、JJ の使用実態との比較を通して TW の「ようだ」「みたいだ」の学習困難点を分析した。考察の結果、次の 4 点が明らかになった。

第 1 に、【課題 3】で明らかになったように、「ようだ」「みたいだ」の使い分けを理解するために文体的特徴を指導する必要がある。先行研究では「ようだ」は書き言葉で、「みたいだ」は話し言葉で使われるものと説明されているが、本稿では新たに下記のこと明らかになった。

表 9 「ようだ」「みたいだ」の文体的特徴

「ようだ」	1) 丁寧体を基調とする書き言葉 2) 丁寧体を基調とする独話 3) 丁寧体を基調とする、上司との対話
「みたいだ」	丁寧体を基調とする、軽い対話

第 2 に、【課題 1】～【課題 3】から、推量の「ようだ」「みたいだ」を指導する際に、人の生理・心理を描写する場面や、小さい頃の話

や他者の話をするような場面を利用できることが示唆される。前述のように、TW にとって情報の性質（例えば人の生理・心理に関する情報か、情報源が他者によるものか、小さい頃の話のような記憶が曖昧になっている情報かどうか）によって、文末に言い切りの形を使用すべきか、推量表現または伝聞表現を使用すべきかを判断することが難しい。従って、抽象的な説明より、具体的な事例を挙げて説明するほうが理解しやすいと考えられる。

第3に、【課題4】で明らかになったように、婉曲の「ようだ」「みたいだ」の使い方は難しく、TW が運用できない。指導の際に、学習者の負担を考えて、婉曲用法より使用数の多い推量用法を優先して説明すべきであるが、「そうみたいです」のような言い回しを指導することによって、断言表現を使用せず、推量表現、婉曲表現を使用するJJの心理がより理解できると思われる。

第4に、【課題5】で述べたように、比況の「ようだ」「みたいだ」はコミュニケーション・ストラテジーとして使用される表現である。両表現の述語用法だけでなく、名詞修飾用法の練習を行うことでコミュニケーション能力を高めることができると考えられる。

母語、学習環境が異なる日本語学習者は異なる学習の困難点に直面する。母語別、地域別の学習者の困難点を把握した上で具体的な事例を通して指導することで効率的な学びが実現できると思われる。本稿ではTWの「ようだ」「みたいだ」の使用実態を分析したが、TWの使用特徴を体系的に捉えるために、類似した機能を持つ文法項目（「そうだ」「とのことだ」「だろう」など）を考察する必要がある。今後の課題としたい。

謝辞

本稿は『多言語母語の日本語学習者横断コーパス：I-JAS』を利用して行われたものです。代表の迫田久美子先生をはじめ、関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

参考文献

- 庵功雄、高梨信乃、中西久美子、山田敏弘（2000）『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』東京、スリーエーネットワーク、1-443.
- 内田賢徳（1977）「『みたいだ』の転用について」『国語国文』 46-5、東京、中央図書出版社、359-369.
- 大島弥生（1993）「中国語・韓国語話者における日本語のモダリティ習得に関する研究」『日本語教育』81、東京、日本語教育学会、93-103.
- 菊池康人（2000）「『ようだ』と『らしい』—『そうだ』『だろう』との比較も含めて」『国語学』51-1、東京、日本語学会、46-60.
- 國澤里美（2008）「認識のモダリティ形式「ミタイ（ダ）」について—視点の観点から—」『ことばの科学』21、名古屋大學、名古屋大学言語文化研究会、171-182.
- グループ・ジャマシイ（1998）『教師と学習者のための日本語文型辞典』東京、くろしお出版、1-704.
- 黄鈺涵（2003）「日本語初級・中級教材における推量表現『ようだ・らしい・みたいだ』について—台湾人日本語学習者のための提言—」『早稲田大学日本語教育研究』2、東京、早稲田大学大学院日本語教育研究科、95-119.
- 黄鈺涵（2004）「日本語教育における「ようだ」の婉曲表現としての機能分類について」『早稲田大学日本語教育研究』5、東京、早稲田大学大学院日本語教育研究科、155-167.
- 佐々木泰子、川口良（1994）「日本人小学生・中学生・高校生・大学生と日本語学習者の作文における文末表現の発達過程に関する一考察」『日本語教育』84、東京、日本語教育学会、1-13.
- 杉浦滋子（2012）「『～みたいだ』文法化の過程」『言語と文明』10、千葉、麗澤大学大学院言語教育研究科、33-53.
- 鈴木あすみ、宋凌鋒、木山幸子（2021）「コーパスから見た日本語ぼかし言葉使用の変化—文末の「みたいな」「的な」「って感じ」

- を例に一」『東北大学言語学論集』29、東北、東北大学言語学研究会、25-38.
- 田野村忠温（1991）「『らしい』と『ようだ』の意味の相違について」『言語学研究』10、京都、京都大学言語学研究会、62-78.
- 丹保健一（1999）「『ようだ』の意味をめぐる：様態、推量、伝聞、婉曲を中心に」『三重大学教育学部研究紀要人文・社会科学』50、三重、三重大学教育学部、1-12.
- 寺村秀夫（1984）『日本語のシンタクスと意味』東京、くろしお出版
- 中畠孝幸（1990）「不確かな判断：ラシイとヨウダ」『三重大学日本語学文学』1、三重、三重大学日本語学文学研究室、25-33.
- 中俣尚己（2014）『日本語教育のための文法コロケーションハンドブック』東京、くろしお出版、1-252.
- 日本語記述文法研究会（2003）『現代日本語文法4 第8部モダリティ』東京、くろしお出版、1-320.
- 蓮沼昭子（2017）「『カモシレナイ』と『ヨウダ・ミタイダ』の婉曲用法 —認識的モダリティの類型的相違がもたらす振る舞いの対照性—」『日本語日本文学』27、東京、創価大学、1-26.
- 益岡隆志（1991）『モダリティの文法』東京、くろしお出版、1-232.
- 益岡隆志、田窪行則（1992）『基礎日本語文法』東京、くろしお出版、1-264.
- 三宅知宏（1995）『日本語類義表現の文法（上）』宮島達夫、仁田義雄編、東京、くろしお出版、183-189.
- 三宅知宏（2006）「『実証的判断』が表される諸形式—ヨウダ・ラシイをめぐる—」『日本語文法の新地平2 文論編』東京、くろしお出版、119-136.
- 宮崎和人（2002）「認識のモダリティ」『新日本語文法選書4 モダリティ』東京、くろしお出版、121-171.
- メイナート、泉子・K（2009）『ていうか、やっぱり日本語だよー 一 会話に潜む日本人の気持ち』東京、大修館書店、1-158.
- 森田良行（1989）『基礎日本語辞典』東京、角川書店、1-1291.